

景観 こぼれ話

和歌の浦の眺望と景観重点地区

和歌の浦地域は、万葉の人々が魅せられた景観が今も残り、市民からの景観づくりの期待も高い地域です。海岸線や海原、島しょなどの独特の自然地形が織りなす、海へと開ける様々な眺望を堪能することができます。

平成24年には、地域住民や活動団体、公募市民が集まって、ワークショップが開催され、その意見も踏まえながら翌年には「和歌の浦景観重点地区」に指定されました。まちなみの特性に応じた景観形成の方向性が掲げられ、これからはより一層の景観づくりが期待されます。

万葉の時代から受け継がれてきた風景が、今後も末永く守り育てられていくことでしょう。



上：高津子山からの眺め
下：奠供山から片男波や干潟への眺め
左下：双子島
中：片男波
右下：ワークショップの様子

漁村の風景(田野、雑賀崎)

田野集落と雑賀崎集落は、昔から漁業が営まれてきた集落です。入り組んだリアス式海岸の湾に張り付くように家屋が建ち並ぶ、独特のまちなみがあります。

一本釣り漁法で有名な雑賀崎では旧正月になると、大漁旗を掲げ祝う伝統行事が行われます。時間帯によっては、活きのいい魚を漁船から直接買うことができます。

隣接する2つの集落でありながら、田野集落では勾配屋根の家が多く、雑賀崎では陸屋根が多いなど、それぞれの集落に特徴がある事が分かります。

上：田野集落 下：雑賀崎集落



上：妹背山と干潟 下：艶やかな紀州東照宮

南部地域の景観

南部地域は、和歌の浦など海岸線と、高津子山や名草山などの山なみに囲まれたエリアです。

和歌の浦や名草山は風光明媚で名を知られる歴史的な場所で、特に干潟や片男波を望む風景は万葉の時代から変わらず美しいと称えられています。また和歌浦天満宮、紀州東照宮や紀三井寺などの神社仏閣もあります。

海沿いには、マリナーシティや浜の宮ビーチがあり、和歌山市の新しい顔をつくっており、特に夏場には大勢の観光客で賑わいます。

田野や雑賀崎といった、漁村もあり、特徴的なまちなみが今に残っています。



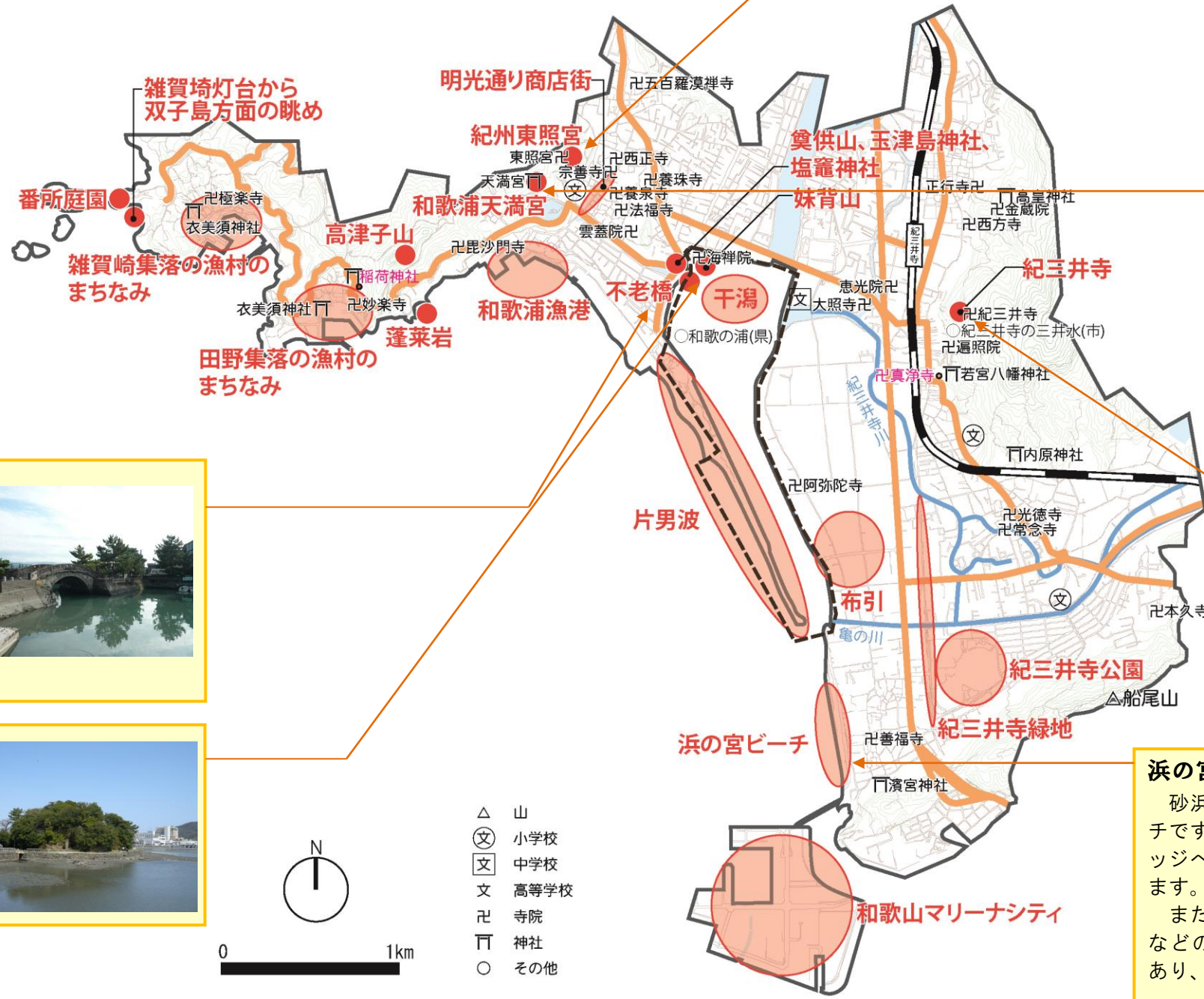
問い合わせ先

和歌山市 産業まちづくり局 都市計画部 都市再生課

〒640-8511 和歌山市七番丁 23 番地 Tel(直通): 073-435-1048

魅力マップ

～南部～



紀州東照宮
 元和6年(1620年)、紀州徳川家初代藩主頼宣が父家康公を祀るため和歌浦の絶勝の地に造営しました。麗華で工芸的な装飾で「紀州日光」と称されています。



和歌浦天満宮
 和歌浦天神山の中腹にあり、菅原道真を祭神としています。和歌浦一円の氏神としても尊崇されています。本殿は極彩色が施されており、装飾が雄麗で、桃山時代の特徴をよく表しています。



紀三井寺
 西国三十三所第2番札所になっている寺院です。観桜の名所として名高く、日本さくら名所100選にも選ばれています。



不老橋
 片男波松原にあった東照宮御旅所の移築に際して、紀州徳川家十代藩主であった徳川治宝の命により完成したアーチ型の石橋です。橋を渡ると不老長寿になれると伝えられています。



妹背山
 紀州藩を治めた徳川家により整備されました。三断橋や多宝塔、観海閣などがあり、間近に干潟と片男波の風景を堪能できる場所です。



浜の宮ビーチ
 砂浜にヤシの木の並ぶ、オシャレなビーチです。マリナーシティやレインボーブリッジへの眺めが、リゾート感を漂わせます。また、サーフィンやウインドサーフィンなどのマリンスポーツが盛んな場所でもあり、市民でにぎわっています。



コラム マリナーシティ 和歌山の新しい顔

マリナーシティは、JAPAN EXPO 世界リゾート博の会場として1994年(平成6年)に整備された人工島です。会期後はヨーロッパ風のまちなみを整えたリゾート地となっています。テーマパークであるポルトヨーロッパをはじめ、黒潮市場、ヨットハーバー、ホテルなどがあり、マリンスポーツの盛んな和歌山らしいリゾート空間となっています。いまや、和歌山市の新しい海辺の顔、となっている場所です。



マリナーシティ内の風景

コラム 布引の根菜

布引地区では江戸時代より野菜栽培が盛んで、今では県内有数の大根の産地として知られています。海に近く砂地であるため、まっすぐできめの細かい大根が収穫できます。毎年11月から2月には大根を収穫している風景が見られ、布引の集落の中を歩くと自家製漬物を販売しているところもまだ残っています。



上：布引に広がる畑の風景
 右：大根を収穫する風景(昭和13年頃)
 出典：「ふるさと和歌山市」(郷土出版社,2009)